

平成31年度第2回白井市廃棄物減量等推進審議会会議録

1. 開催日時 令和元年11月26日(火) 午後2時00分から午後3時35分まで
2. 開催場所 市役所東庁舎会議室101
3. 出席者 委員 大家委員、吉村委員、菅原委員、清田委員、山谷委員、鬼沢委員、寺田委員、藤本委員、藤田委員、井川委員、市川委員、生田目委員、事務局 金井環境課長、國松主査、芳賀主査補
欠席者 斎藤委員
4. 傍聴者 0人
5. 議題 (1) 家庭系ごみ減量化・資源化の促進(ごみの有料化導入)について
①ごみ処理手数料の徴収について
②近隣の市町村の状況について
(2) その他
6. 配布資料 ①審議会次第 ②ごみ処理手数料の徴収について
③県内家庭系ごみ有料化状況④家庭系ごみ有料化に係る支援体制の状況
7. 議事 以下のとおり

○事務局 開会

○会長 あいさつ

○事務局 自治連合会のほうから選出されていた大野 彰委員にかわり斎藤 勇委員が本日の会議から加わる。
資料の確認
議事進行を会長にお願いし、議題に入る。

○会長 本日の会議につきましては、白井市審議会等の会議の公開に関する指針第3により公開をすることが原則となっておりますので、公開することといたします。なお、本日の傍聴定員は5名となっております。
それでは、お手元の次第によりまして、会議を進めさせていただきます。
初めに、議題1、家庭系ごみの減量化・資源化の促進(ごみの有料化導入)についての①ごみ処理手数料の徴収についてを事務局よりご説明お願いいたします。

○事務局 資料(ごみ処理手数料の徴収について)をもとに説明。

○会長 今、説明いただきまして、要するに白井市は単独に有料化で進めているのだけれども、印西市のほう、なかなか話が進んでいない状況という形になっているのが、今現状ということですね。

袋が印西市と共有した形になっているので、指定袋に手数料を転嫁するというふうに持っていくには、今の状況ではちょっと難しい状態になっているということで。そういうことですよ。

○事務局　そういうことではない。一応、調整を進めていかなきゃいけないということと、今、組合に対しては、負担金として収集運搬業務を出しているの、手数料を取るに当たって、負担金では取れないのではないかとということで、収集業務を戻すというところで。

○会　長　印西市のほうから戻って。

○事務局　戻すということで考えているのですけれども、印西市のほうとしては、一緒に入ることで、引き続き組合に収集運搬業務をやっていただく。そのとき手数料に対しては、組合の収入になるということで、そのかわり負担金が減る効果があるということになります。済みません。

○会　長　ちょっとまだ中身がよくあれなのだけれども、要するに、運搬業務を市の業務に戻すことができれば、印西市云々ではなくて、白井市で単独でできる形になるものなのか、どうなのかというところもある。

○事務局　収集運搬の事務が戻ってこない、単独でやるには手数料を徴収できないのではないかとということです。

○会　長　できないということ。それを戻すことができれば、印西市が今、有料化にどうのこうのなっていないなくても、白井市のほうでできると。

○事務局　単独でできるのですけれども、ただ、もともと検討していた印西市と白井市と栄町で一元化しましょうという話があったので、この間、印西市に行ってきたのですけれども、そっちのほうで印西市はということで。

○会　長　印西市のほうになかなか進んでいない状況ということですよ。となると、今、有料化を進めているわけですから、どこかでとまっちゃいますよね。

○事務局　そうですね。

○会　長　そうならないようにするには、印西市のほうできちんと進めてくれることができるのかどうか。

- 事務局 進めていくこととご理解いただくことができるのか。
- 会 長 それがいつになるのかどうなのかということによって、今この審議会の中でもまた進め方が変わってきちゃうのかなと思ってはいるのですけれども。皆さん、どう思われますか、その辺のところ。
- 委 員 質問してよろしいですか。
- 会 長 はい。
- 委 員 そもそも最初から、収集運搬費の手数料をいただくという検討だったでしょうか。家庭系のごみの有料化という話で、最初に収集運搬費というのは明確になっていなかったような気がするのですけれども。
- 事務局 素案のほうでは「など」という、使途のところ、資源回収運動の助成、指定ごみ袋の作成や有料化に係る経費のほか、減量化を啓発するための経費や一元化制度の助成「など」とはしていた。一応こちらのほうとしても、収集運搬に関係して増収にすることが想定はしておりました。「など」という部分があると思うのですが。
- 会 長 どうぞ。
- 委 員 まず、ごみ収集運搬業務というのは、印西市と一緒にやることによって、例えば車が配分が少なくて効率よくできるとか、ガソリンのかかりが共同でやることによって経費が減らせるということがあるのかどうかということと、それから、指定袋についても、単独でつくるのと共同でつくるのに当たって、経費がどれだけ違うのかとか、共同ですることによってたくさん印刷するから安くでき上がるとか、こういうことも含めて、どちらが効率がいいのかどうかというところを教えてください。
- 事務局 共同でやろうということにつきましては、委員さんおっしゃっていたように、それぞればらばらでやっていたものを一つにまとめることで経費が削減できるとか、そういうところで効率化が図れるだろうということで導入したということもありました。それで進めていったというところはあります。それで回答になっていますか。
- 委 員 はい。であるならば、それこそ税金を少しでも減らす、無駄遣いを減らすということであるならば、なるべく印西市と共同してやったほうが効率的なのじゃな

いかなと思うのですけれども、いかがですか。

○事務局　そうですね。おっしゃるとおりだと思っております。実際組合のほうでも、有料化ということを検討してはいたのですが、それが結局、遅々として進まなかったということもありまして、白井市の方がトップダウンで有料化しなさい、導入しなさいということで5月に諮問させていただいたところがあるのですけれども、一応そういうことで話を進めていくうちに、印西市のほうも、いずれというのは考えていらっしゃるということで。それだったらそういう方向で進めていけばいいのかなというのがあります。

○委員　であるならば、それこそ市長対談じゃないですけれども、もっとトップのほうで、それに強力に進める方向を持っていていただきたいなというふうに、私なんかは思うのです。

○会長　今の段階だと、印西市と白井市がうまくかみ合っていない状況がある、今言われたトップ同士できちっと話して、流れが変わっていくような形。

○事務局　まだ、そこまでは。

○会長　いかない。

○事務局　進んでいないというところ。

○会長　あと、印西市と共同でやることによって、経費が少なくて済むという、本来本来にそうなのか。あとは白井市で独自で、独自とっていいのかわからないですけれども、収集運搬業務を市の業務として戻すことによって、どっちが経費のかかり具合が違うのだろう。有価物も扱っているわけですから、その辺のところでデータを出していただけると、どっちがプラスでマイナスでというのをを出していただけると、また検討できるのかなと思いますけれども。

そうすると、印西市といつまでも共同でやらなくても、もしかしたら済むのかな。こういった協議会もスムーズに進むこともあるかと思うのですけれども。

○委員　会長、一言よろしいですか。

○会長　はい。

○委員　経済学のほうから見ますと、規模の経済性みたいなものはほとんど働かないだろうと思います。密度の経済性というのがありますけれども、それは確かに働く

のですが。

実際問題として、組合が収集をやっているといっても、組合が家庭ごみの収集運搬業者に委託しているわけです。あなたのところはこのエリアを収集しなさいと。そういう意味では、各市町にばらしたところで、スケールメリットが損なわれるということはそれほどないだろうと思います。組合が直営職員で収集しているというのではないですよ。

○事務局 ないです。

○委員 民間委託ですよ。

○事務局 そうです。

○委員 そういう意味では、経済性が大きく損なわれるということは、ちょっと考えにくいです。

○会長 その他、皆さんご意見ありますか。

○委員 この委員会で、印西市とうちのほうとの比較検討というよりも、既に私どものほうは、19年に粗大ごみを有料化している。しかし向こうは、いまだにそれはできていない。しかし、一般の家庭ごみについては一緒にやりましょうというようなことで進む場合にも、もうちょっと家庭系のごみの手数料については、白井は白井で現状がどうなのか、そして現状の中にどういう課題があるのか、問題点をどこに求めていくのか、それを円滑にして、できるだけごみの量を減らしましょうと。こういうことを通じて減らしていくという方向の検討をここでしっかり議論して、白井は白井の独自と言っちゃいけませんけれども、それなりの見解をみんなが共有するところまで行って、さあどうですかというふうにお互いが、トップダウンとか何かだったら、余りここで議論する必要はないので。しっかりこれを減らしましょう、価格を低くしましょうと、いろいろな議論がこの前にあってしかるべきだと思うのです。

だから、ここでいう収集運搬業務の内訳の各ユニットの費用はどうなっているのか、そしてトータルとして、今のごみ袋に、たしか白井市は三つぐらい割り振っていますよね、大中小で幾らと。それに、さらに数をふやすのか、あるいは単価を上げていくのか、そういうもともとの収集運搬業務に関して、クリーンセンターさんにかかる費用が幾らかとか、その基礎的な数字を1回示していただいて、それをもとにして、これはちょっとおかしいと、こういうのはとてもじゃないというような議論をまず1回やっておかないと、これは後では、ずっと進んでいったら収拾つかなくなっちゃって、もともとはどうだったのですかということ

がわからなくなれば、これはなかなか、繰り返し繰り返しになるから。その点だけは、最初からデータを出して、幾ら本当にかかっているのかということ、レジ袋の代は今幾らだと、こうなっているわけですがけれども、それは既に市のほうでやって、今度、市が市の価格で決めて、印西さんとは関係なくつくっている、しかし名前は二つ一緒になっていると。非常に混乱しているから、最初のところから1回きちっと、ごみの手数料あるいは収集運搬業務にかかわる個別の単位について、幾らかかるのかということをお教えしてもらいたいです。

○会 長 事務局。今言った、かかっている経費、組合に払っている経費ですか、その運搬業務に今先生からお話いただいた形で、次回の委員会までにいただくことは可能ですか。

○事務局 委託の経費ということですか。

○会 長 今現在かかっている。

○事務局 今現在、収集運搬でかかっている費用。

○会 長 経費、数字的な。

○事務局 次回までには示すことは可能だと思います。

○会 長 それによって、こうすればこうだよとか、そういった検討がもしできればいいかなと思うのですがけれども。今までずっと組合のほうに経費をお支払いしていたのですがけれども、果たしてそれが妥当な金額なのかどうなのかって、そこで見えてくるのではないのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○委 員 それをやられるのなら、現状今どのぐらいかかっているか出ますよね、委託料。

○会 長 はい。

○委 員 それと新しく白井市単独になった場合の見積もり、それがわからないと議論できない。

○会 長 その辺、大体全部出していただいて、どうすればこうなるという。

○委 員 定量的にやっぱり物事を。データがないと。

- 会 長 判断材料がないと。
- 委 員 全くないから、我々は全然わかりません。
- 委 員 済みません、今〇〇委員がおっしゃったのは、収集運搬費用だけじゃないですよね。
- 委 員 はい。
- 委 員 収集運搬費用だけじゃない、ごみ処理全体に組合に幾らしているかというのがあるって、ようやく、ごみ減量すればどれだけになるかということだと思いますので。
- 会 長 全体的にトータルな経費ですね。
- 委 員 負担金の内訳。
- 事務局 それでしたら、負担金をどれだけ支出しているかというのは。
- 委 員 それは、すぐ出ていますよね。
- 事務局 それは可能ですね。
- 会 長 じゃあ次回、データ。
- 委 員 済みません、もう1回ちょっとお聞きしたいのですが、印西市のとりあえずは粗大ごみの今、無料を有料化していこうという検討はしているけれども、まだまだ先の話という感じだったのですか。
- 事務局 粗大ごみに関しましては、印西市については、粗大ごみの有料化については、実は何年か前に答申は出ているのです。ただ、それが進んでいないというだけの話で。家庭ごみの有料化については、結局我々が出してきたので。
- 委 員 多少、刺激になった。
- 事務局 なっている。で、来ているので、後で出そうかなと思っていたのですけれども、ご存じかもしれないのですけれども、今、県内の市町村でいずれかの収集だったり、センター持ち込みだったりを含めて、何らかの形で手数料を取っていないと

いう市町村というのが、成田市と印西市だけなのです。

成田市も、有料化については検討を始めようかなという段階に入っているという話を伺っているので、そうすると、この話があったので、印西市のほうとしてもいつまでも無料というわけにもいかないだろうという考えはお持ちのようです。

○会 長 有料化ありきで持っていってしまうとあれなので。有料化凍結して、有料化にしなくても、こうすれば済むよねという何か案件があってもいいのかなとかと思いますけれども。例えば印西市の、なかなか今検討はしているようには見えないけれども、実際は検討していないのかもしれないというところなので、できるだけ肩を並べることができればいいのかなと。

だから、この前もちらっとお話しましたがけれども、お金になるものを集めているわけですから、それをうまく有効活用して市民に還元できるような形がとれれば、もしかしたら有料化にしても、市民の皆さんも、それだったら納得できるという話に持っていける題材があれば、またいいのかなと。白井市独自のそういったやり方があってもいいのかなと。そうすれば印西市とも、こういうやり方があるよ、もっとスピードが速くなるかもしれないと思いますけれども。

その他、皆さん何かご意見ありますか。

○委 員 一応、来年度から、レジ袋が有料になりますよね。有料になる方向だと思うのですけれども。その点、白井市と印西市、あと他の近隣の市、共通でやるのですか、これ。そこまでは行ってない。

○事務局 レジ袋というのは、コンビニとかのレジ袋の話ですかね。

○委 員 一応、来年度からって、うたっていますよね。その辺、どうなのですかね。

○事務局 レジ袋につきましては、市が直接かかわるものではなくて、多分、国のほうの方針で、コンビニとかスーパーとかで出す袋を有料にするというようなことだと思うのですけれども。

○会 長 今、大手コンビニが始めるという形になっていますけれども、地元のスーパーとかその辺ではどうなのかなという、対応が間に合うかどうかなのかなというところがありますけれども。要するに、袋を使わないとポイント還元とか、今スーパーなんかでもやっていたらいい。小さなお店とかだと、それはまだ多分追いつかないのじゃないかなと。あとは、自分たち消費者が、自分できちっと袋を持って行って、レジ袋、そういった袋を使わないような体制を消費者自身から持っていけないという。

- 委員 今、レジ袋要らないと言うと、ポイントが多少つく制度がありますよね。
- 会長 スーパー行くと2円。
- 委員 大きなところはできるけれども、小さい店舗は無理ですよ。
- 会長 袋要らないですよと言うしかないから。
- 委員 マイバッグを持っていったり。
- 会長 そういった対応を消費者がしていく必要があるのかなと思っている。何でもかんでもお金取られるって、お金ありきだとまた困っちゃうので。できるだけ消費者の、その辺上手に考えて対応していかないとならないかなと思います。
そのほか、ご意見あります。
どうぞ。
- 委員 今、可燃ごみの袋が大中小あるのですけれども、1種類に絞ってしまうと、袋の値段を下げてとかはできないのでしょうか。それは多分、印西市と一緒に使っているものときは、難しいかもなのですけれども、1種類に絞って袋の値段自体を下げて、下がった分、いつもどおりの値段で売って、袋を小さくするとか何か。
- 事務局 要は袋の単価を下げて、その分手数料を取ったことによって、今までと同じ価格でできないかなという。
- 委員 多分、それはかなり難しいと思いますけれども、袋の単価自体を下げられないのか。結構あの青い袋は、丈夫過ぎるなと思うときあるので。
- 委員 今、2種類だよ。
- 委員 そうなのですか。
- 委員 大中小ありますよ。
- 委員 リッターによって袋の値段かわってくる。40リッターとか60リッターとかって、青い袋。
- 委員 黄色いプラスチックの袋は薄っぺらくて、1種類しかなくて、あれ、どっちが

高いのですかね、青い。

○事務局 それは、実際のところ組合さんのほうで発注してやっているところもある。

○会 長 市のほうとしては、発注にはかかわっていない。

○事務局 かかわっていないです。

○会 長 例えば市のほうで独自で発注できるような、もし体制がとれるのであれば。

○事務局 実際に……。

○会 長 それは不可能なのね。

○事務局 そうすると、袋を戻すことになると思うのですが、実際、白井市単独で有料化という話になれば、袋を引き下げることになるので手数料を取ることになりますので、栄町もそうだとおっしゃっていたのですけれども、自分たちで発注をかけることになると思いますので、そこでという話にはなるのかなとは思いますが。

○会 長 直接つくったり何かできれば、多少安くなるのじゃないのかな。

○事務局 そうですね。それは何とも言えないですけれども。

○会 長 そうすれば、可能であれば、今言われたことも不可能ではないのかな。

○事務局 だと思いますね。

○委 員 ちょっといいですか。ここに書いてありますように、「指定袋に手数料を転嫁する方法を想定」と、これはどういう意味ですか。既に、今おっしゃった3通りのごみ袋ありますね。それとはまず関係なく、この指定袋に手数料を転嫁する方法というのは、どういう関係性がありますか。

○事務局 今現在、指定袋を購入していると思うのですけれども、その価格の中に手数料を足すという。

○委 員 高くなるということですね。

○委 員 その方法以外には、考えられないのですか。

○事務局　ほかにも幾つかあるのですけれども、この方法が一番手数料取りやすいということがあることと、あとは大多数、県内の市町村で取っているところは、ほぼこの方法をとっているということもありまして、この方法で考えてはおります。

あと、前回の審議会で素案の中にも入れさせていただいたのですけれども、指定袋に料金を転嫁する方式のほかにも、シールを買って張りつけるという方式もあるようなのですけれども、一応こちらの市のほうでは、ごみ袋に転嫁する方式ということでは考えております。

○委員　細かい数字がまだ全然見えてないのですけれども、組合で今、2市1町の処理をしているわけですね。

結果的に持っていくところは1カ所なのに、袋が3種類出てくるという、わざわざ3種類にする必要あるかなという感覚もありますし、今後ごみ処理は広域化になっていく方向があるわけで、言ってみれば、ここは昔から広域化を図っているわけですから、そのメリットをもっと生かす形にしたほうがいい気がするのです。

最終的に処理するところが1カ所なのに、3カ所が別々の方法でやっていること自体が逆行なのじゃないかなという気がするのですけれども。

○事務局　確かに今の状況ですと、栄町が家庭系ごみ有料化を独自でやっておりますので、独自でお金を取って収集運搬ということで収集運搬を独自にやっている。有料化するから、収集運搬一元化が外れます。

今、印西市と白井市のほうで共同でやっているという状況ではあるのですけれども、確かに組合のほうでも、それはいかんという考えはあります。それぞれの市町村の立場が異なっている、それぞれの構成市町のロケーションにもよってくるところが、ご存じかどうかにはせよ、あると思うのです。そこをなかなか調整できていないという部分があると思うのです。

印西市だと比較的、財源に余裕がある、栄町は物すごく厳しい、白井市の場合は板挟み、その中間で。厳しいことは厳しいのですけれども、何か板挟みになっている状態はあるのですけれども、これだけせつかく委員さんおっしゃっているように、広域でやっているということもありますので、というのはあると思います。

○委員　現状の収集ですけれども、業者さんに区域を指定して委託するわけですが、この3市町あるいは印西と白井の間で、業者の持ちエリアはほぼきっちり分かれていますか。

○事務局　印西市を回るエリアは印西市の業者、白井市を回るエリアは白井市の業者と分かれています。

○委員 ということは、組みかえをやると、なかなか非効率になったりするのです、なれるまで。そういうふういきちっと分かれているとすれば、収集の効率が損なわれるということは避けることができるということだと思います。

○委員 先ほど〇〇委員がおっしゃったように、広域でなければできないものってあるでしょう。例えばクリーンセンターというのも広域だから、これだけの市町が寄って、効率よく稼働させていきたいと思いますということになっているわけですね。

しかも、白井市は、大体年間、印西のクリーンセンターさんに持っていくのは5億でしょう。この過去の資料から見ると、年間5億は払っているわけですね。だから、そういうものの積み上げた根拠があって、これをどうしようかという議論をしていかないと、広域で云々というのでは、これは当たり前ですよ。そして、そういう議論を今までずっとやってきたのだから、そして負担の公平性とか何かの話をもう皆さん熟知しているわけで、できるだけ可燃ごみについての負担については、白井は白井で独自の見解を持つにしても、よるところはこちらのほうのベースできちんとやっていくのか、向こうさんにはまだ何も無いわけだから、できるだけこちらのほうの有利と言っちゃいけないですけども、それなりの負担をしている部分の範囲内で提案をしていって、白井市も印西市もそれで行きましょうというような方向に持っていくほうがいいのじゃないかと思うのです。

○委員 今までは、話し合いのときは細かいデータ、数字しかないですね。細かいデータ、目に見えたデータがないのでわかりにくいのと、たまたま私たちは、有料化のための審議だけれども、もともとはごみを減らして、負担金も減らしてというのもあったし。

この前、たまたま鎌倉市の市役所のお話を聞く会があって、もしこういう機会があったらすごい細かいデータを見せて、市民にも見せてわかっていただいて。普通買い物に行っても、まずエコバッグもみんな持ってないし、そういう感覚は皆無に近いかなと私は思っています。

鎌倉市役所さんは、白井市もすばらしいですが、アピールして市民が考えるようになっていて、それで市民も努力する。鶴岡八幡宮の高層ビルマンションがあって、市民が借り上げて管理して。

あと、だんだんそういうのが子供たちも芽生えてきて、子供たちが自分たちが何かできることがないかなって市のほうに問い合わせして、カンボジアにいる子供たちに洋服を送ろうとあって、写真を見たら段ボール、「カンボジアの人たちに服を」と書いてあってポーンと置いてあって、入れてあるのです。

白井市をみんな好きになってもらって、自分たちですばらしいまちになるように、たかがごみとはいいますが、そこからいろいろ考えるように、魅力あるまちになっていくように、数値を見せて、自分たちでちょっと興味を持ってもらって、これからをしょって行く子供たちも、いろいろ考える力、心が芽生えてくれるよ

うにしていけたらなど。やっぱり今回、データがないので、いろいろなデータを見て、そこから選ぶようなのとか、そういうのもいい手かなと思います。

○会 長 事務局のほうにも、今回こういったお話まとめていただいて、印西市のほうにも、今白井市ではこういう話が進んでいるのだという形をぜひ訴えていただいて、早く進めていただけるような形をとっていただけるとありがたいかなと。せっかく皆さんからいろいろないい意見をいただいていますので、ぜひお願いしたいと思いますけれども。

そのほか、ご意見ありますか。

○委 員 印西環境整備事業組合のほうでは、こういう話は全然出てないのですか。要は、ごみを有料化して、構成市町村で話し合いをしてという。

○事務局 一応、組合を含め、過去に有料化の話なのですけれども、組合も入った上で過去に進んでいたのですけれども、結局それが進んでいなかったという。

○委 員 その中で白井市は提案はしたの。

○事務局 白井市と印西市、構成しているところがあるので、もちろん組合も入ってという形で進んでいたのだけれども、進まなかったという経緯なのです。

○委 員 そこだと、ごみ処理に幾らかかって、それを人口なり何なりで配分してというのがデータとしてきちんとあると思うので、それを市町村に転嫁してというので、話がすごく進みそうな気がするのですけれども。

○委 員 組合の長が印西市長ですから、その意向は非常に強いと思います。

○会 長 栄町の場合は、町的な財政の問題からして、一等先に有料化しなければならないという話になったと思うのですけれども、印西市は逆に、財政が裕福な分、そんなに慌てないでゆっくりしちやっているのかなと。白井市は、先ほどあった板挟み状態で、どうしようかみたいな感じでこうやって進めていっているわけですから。あとは、同じ組合を使っている、なぜ同じ状況にならないのかというところもありますから、栄町のように単独のできるのであれば、白井市も同じ組合を使いながらも、白井市は白井市なりにできることを先にやっていくような形をとっていかないと、いつまでたっても前に進まない状況が続いてしまうのかなというところがあるかと思います。心配があるかと思うので、ぜひ印西市のほうには、早いとこ進めて、進められないのか進められるのかというところを確実に聞いていただいて、答えを出していけばいいかなと思います。

- 委員 済みません、多分重複する意見になると思うのですけれども、先ほどの説明で、収集運搬業務が白井に戻ってこないといけないという説明だったと思うのです。その業務が戻ってくるか、印西と一緒にやるか、どちらかの選択なのかなとさっき聞いていたのですけれども、印西も導入を考えているという説明もあったので、そこは積極的に事務局のほうから印西のほうにお願いするとか、何かもっと積極的に動いてほしいなと思っています。ただ何となく、いつかやろうとか、どっちかが何とかしようとか、そんなのでは進まないし、やっぱりこういう話がありますから、ぜひ一緒に会議をしたいとか、そういうふうに一歩進んでほしいなと思いました。以上です。
- 会長 待っている必要はないですものね。進まないと言え、こちらは独自でやりますよぐらいな形で持っていつてもらえるといいかなと。
- 委員 この会議の委員が、委員の総意で、もっと早く進めろという意見が多かったと言っていた方がいいのじゃないですか。
- 会長 でないと、不満ばかり、ストレスばかりたまっちゃって。
- 事務局 こっちも市のほうに言われたことをまとめて、早目にもう一度出すということは考えております。
- 会長 そのほか、ご質問、ご意見ありますか。
- 委員 例えば一歩進めるために、印西もこういう廃棄物減量の会議みたいなものはないですか。
- 事務局 これと同じように審議会は。
- 委員 あるのですよね。そうしたら共同でやるような機会を設ける、意見交換会みたいなそういうのを持つような機会。
- 事務局 両方集まるみたいな。
- 委員 提案していただければ。
- 委員 そうすると、もうちょっと前向きに向こうも考えてくれるのじゃないかなと思うのですけれども。

- 会 長 栄町、印西、白井市、あと、こういった委員会で、あそこのクリーンセンターの運営でやる会議は、別に何かありましたよね。前に参加したことあったのだけれども。
- 委 員 クリーンセンターでやるのは、組合が主催の会議ですよ。市が独自にこういった会議を持っている。
- 会 長 もし、その中で意見出せれば。早く一元化という形がとればいいのかないと思ったりもしたのですけれども。どっちにしても早いところ進めていっていただかないと、停滞してしまうということに。
- 委 員 整理すると、2市、白井市、印西市、栄町のほかに組合というのもあるから、要するに四つの組織があって、一つのところで処理しているから、その四つの合意がないと、なかなかものが進んでいかないというのが現実なのですよ。
- 事務局 そうですね。組合とそれぞれの構成市町。
- 会 長 動いて行って行動していかないと、まず。
- 委 員 調整だけしていたのでは、なかなか進まないですから。
- 委 員 先ほど確認させていただいた三つの市町で収集業者が区分されているということであるとすれば、収集業務というものを市単独にしないで、支障なくやれそうですけれども。市の条例を改正して、手数料制度を設けるという形になるわけで、手数料の設定権は、市と市議会にあるわけですよ。そして、白井市の独自の有料の指定袋を作成する、その運用を市民に協力して排出していただく。収集業者は、白井市のものを集めて組合に搬入するという一方で、特に大きな支障というのは、ないのじゃないかなという気がしますが。
- 事務局 それは、取った手数料を負担金として組合に出しているのですけれども。
- 委 員 ですから、収集の負担金とかは特に変える必要はないと。収集の仕方を定められた指定袋を使って排出していただく。その排出されたものを搬入するという一方で、収集の負担金というのは、これまでどおりで特に差し支えないのじゃないでしょうか。
- ただ、印西市とは別の指定袋になるわけで、印西市にはその断りを入れるということになりますけれどもね。印西市は印西市の指定袋をつくっていただくということになりますよね、当然のことですけれども。白井市は白井市の指定のごみ

袋を使うということで、全く問題ないですよ。

○事務局 負担金に手数料を充てるということに対して。

○委員 だから、白井市の場合には手数料が入りますから。それでいろいろな減量施策とか講じるという余裕が出てきますよね。一方、印西市のほうは、相対的にたくさんのごみを持ち込むということで、分担金、負担金の金額が上がることになりますよね、困るようなことになって。白井市は負担金を減らせますよ。当然ながら、ごみが減るわけだから。ということで、印西市も何らかの対応をせざるを得ない。そうでなければ市民に説明がつかないということになると思います。そして、この広域全体において、ごみの減量が長い目で見れば進んでいくという形になると思います。

○委員 今現在は、収集運搬業務は、白井の業者を2社かな、3社、使っていますよね。

○事務局 3社です。

○委員 使っているけれども、それは白井からの依頼じゃなくて、結局、事業組合からの依頼でやっているのですよね。収集は、市じゃなくて。ということは、お金のやりとりも多分、業者と組合とのやりとりですよね。ということは、白井市としては、業者とのやりとりとか、処理とかのお金をまとめて白井から負担しているということですよね。今は、業者は分かれたとしても、ちょっと面倒なことになりそうな気はするのですけれども。指定が白井からの指定ではないですものね、今現在。

○会長 指定業者ですか。

○委員 収集運搬業務をしている業者が3社あるじゃないですか。それは白井からの指名ではないのですね。

○事務局 じゃないです。

○委員 組合からの指名ですよね。

○事務局 そうです。

○委員 それを別にしてということになると、また違う負担金がかかりそうな、私はそんな気がしたのですけれども、そんなことはないですか。

○委員 収集のコストですけれども、これは、どれだけごみが減るかによって、収集のコストが減るといえるのは確かにあるのですけれども、これは収集車両の数を減らせるぐらい減らないと、収集コストは減らない。多分、収集車減らせると思いますよ。ということになると、収集コストも白井市は減ってということなのですけれども、その組合の中での収集コストの分担について、どういう取り組みになっていくのかはわかりませんので何ともいえないのですけれども、やはり一番大きなコスト削減要因というのは、搬入するごみの量でして、これが減るといえることは、相当白井市の場合は負担金を減らすことができると思います。

ということで、特に収集コストを減らそうという、負担金を減らそうということは特に考えなくても、搬入ごみを減らすということで、相当負担金を減らせます。収集については、どういう取り決めになっているのかわかりませんが。

車両をどれだけ減らせるかによってちょっと変わってきますが、一方で集積所の数は変わらないですね。だから、ごみ量に比例して収集コストが減るといえることでもないですね。その辺どういう取り決めになっているのかは私わかりませんが、それはその取り決めに従って、ごみの減量に伴って収集コストの負担が減らせれば、それに越したことはないと思いますけれども。

○委員 済みません、いいですか。負担金というのは、ごみ収集のコストなのですか、要は焼き場の維持管理とか、それから積立金、新しいのをつくるための積立金みたいな、そういう部分まで含まれているのですか。

○事務局 積立金は、クリーンセンターの焼却、そういうのにかかる費用だとか、もちろん課題である人件費だとか、そういうところまで負担金として支出しているというのが。もちろん収集運搬もそうですけれども。

○委員 これは平成24年だったかと思うのですけれども、印西地区組合に1回参加したことがあるのですけれども、そのときの印西のクリーンセンターには、1万5,000トンが印西市、1万トンが白井、5,000トンが栄町だったのです。要するに、今までは印西市が持っているのですけれども、そのときの議論はちょっと別としましても、白井市のように産業3部門がしっかり組み合わさってこういう地域を形成しているのと、印西市とは全然違うのです。考え方も違うのです。

だから私のほうは、栄町と私の白井市のほうは、例えば30年にクリーンセンターを建てかえるというふうになっているのです。200億ぐらいで建てかえるというふうになっているのです。ちょっと変動がありましたけれども、こういう市だと場所も決まっていますから、そのときに、30年、32年の人口の予測の話が出たときに、印西市は、これは最小二乗法でいきましょうという数字を出したのです。うちのほうと栄町は、人口が減ったりふえたり、しょっちゅう変動しているから、そういうものではだめですと。できればコーホート予測法のような出生死亡の増

減変動のものとずっと連動していったときに初めてどれぐらいの人口が想定されるかというのを、栄町とうちのほうはそれで出したのですけれども、印西市は全然そういう念頭がない。

だから、余り印西市のペースでいっちゃうと、例えば高層ビルから一切ごみは出しませんと、全部その家庭の中で焼却処分にできているから問題ありませんとか、そういうレベルの話や堂々とされちゃうものですから、こっちも困っちゃうわけです。だから、余り印西市の考え方で進めるよりも、白井市のほうがしっかりした組み立て方をしているって、こうしましょう、ああしましょう、どうですかという議論をしたほうが、たしか200億じゃ大き過ぎるのじゃないかという議論も出ているのだけれども、もうこれは決まったことだからとか、そういう言い方をしていけば、これはもう収拾つかない。だから、きちんとした公共のをつくって、これぐらいの規模。

だってこれは最前から何回か議論が出ていますけれども、80%の生ごみの水を持っていくわけです。それを全部チャラにして、もう水は持っていきません、できるだけ乾いたものをクリーンセンターさんに持っていきましょとすると、200億の規模のものじゃなくても済む場合があるわけです。

そういうのをできるだけ早く、時間かけて少しずつ進めていけば、ある程度のめどがついたときに、150億ぐらいの規模でいいのじゃないですかとかいう議論にもなれば、それは我々も、これは税金が相当出ているわけですから、そういうところも縮小できるし、できるだけ早目にきちんとした数字を積み上げていって、印西市のほうに提言すると。栄町のほうは、まだ水田地帯が多いものですから、しっかりした考えがあるのですよ。ところが、あれだけの大きい商業区ができ上がってしまうと、計画が全然、生ごみについても一般家庭ごみについても、感覚が全然違っちゃいますから、その点は、うちのほうが自然に恵まれているところを将来とも残しましょというようなスタンスにいくとすれば、こちらはきちんと物を言えるようにしておいたほうがいいのじゃないかと思うわけです。

○会 長 ありがとうございました。先ほどクリーンセンターの話も出ましたけれども、今後の時代に見合ったものに果たしてなっているのかどうなのか。決まっているからではなくて、今後の時代に合ったものに変えられるものは変えていくべきことではないのかなと思います。

今回、次回までに数字、先ほどのデータを出していただいて、その中でまた検討、お話をさせていただければなど。できるだけ委員さんの皆さんには、事前にそのデータを配付させていただいて、当日またそれに見合った話ができるようにしていただくと。

時間にもあれですので、次に行きたいと思っておりますけれども、休憩10分ぐらいとりましょうか。5分、10分、大丈夫ですか。

- 委員 大丈夫です。
- 会長 トイレ、大丈夫ですか。じゃあ続けていきたいと思います。
この資料の2というのは、特に説明要らないかな。
- 事務局 一応簡単に。
- 会長 じゃあ、次の議題に入らせていただいて。
- 事務局 大丈夫ですかね。
- 会長 休憩大丈夫ですか。
- 委員 今データ調べるというお話でしたけれども、もし別で白井だけの袋をつくるとすると、数が多分、今の3分の1になってしまう状況だと思うのです。そうしたら袋の値段がどのぐらいになるかを出していただければ、次の検討するとき参考になると思うのですけれども。多分、今よりも高くなると思いますよね。
- 委員 やり方かなと。
- 委員 高くなって、しかも上乘せの値段がつくわけでしょう。
- 委員 そうですよね。そこはやっぱり検討して、印西と一緒にのほうが変わらなかったら、それも検討する課題の一つになると思うのですけれども。
- 委員 そのとき、どれぐらいの価格、値段に上がるかによって、これはとてもといって拒否されたら、青い袋を誰も使わなくなったら、元も子もなくなりますよね。その点も十分考えて、そこは大事ですね。
- 委員 つくっている業者のほうに問い合わせして、どのぐらいになるかを検討していただきたいと思います。ごめんなさい。
- 会長 いえいえ。材料も、リサイクルプラでもちろんつくっていることでしょうから、かなり安く見積もる業者は多々あると思いますので、その辺も検討していただいて。
- 委員 家庭ごみはあれですけれども、事業系のごみについては、何の問題もないのですか。

- 事務局 何の問題もないということは。
- 委員 要は、手数料を上げてどうのこうの。
- 事務局 事業系については、手数料を取っていて、こっちで取るもの……。
- 会長 それも次回に出してもらえれば。
- 委員 クリーンセンターで直接。
- 委員 管理していない。
- 委員 直接、収集運搬業者さんと契約して。
- 会長 使えないですものね。
- 委員 日常的に出るごみじゃないからね。
- 委員 どんどん、どんどん上がっておりまして。プラスチックとかも昔は有価で回収してくれたのですけれども、今はもうどんどん手数料を。
- 委員 手数料を上げれば減りますか、プラごみ。
- 委員 生産量とかでも変わるのですけれども、梱包材料とか、その辺の全部見直しからしないといけないのですけれども、なかなか海外から来るものとかは梱包材が多かったりとか、今、頭痛いところです。
- 会長 それでは次の議題に、事務局お願いします。
- 〈議題（１）家庭系ごみ減量化・資源化の促進（ごみの有料化導入）について
②近隣の市町村の状況について〉
- 事務局 資料（県内家庭系ごみ有料化状況）をもとに近隣市町村の状況について説明。
- 委員 できそうだけれども。
- 事務局 1枚当たりの単価につきましては、前回5月の審議会の中でも申し上げたのですけれども、大体0.5円から1.5円の範囲の価格設定が多いという形にはなってお

ります。袋に転嫁する場合でも、やはり3種類ないしは4種類設定している形にはなっております。

続きまして、もう一つの資料のほうなのですけれども。

○委員 ちょっと済みません、ちなみに白井市は、どういうふうになっているか教えてください。

○事務局 白井市は、あくまでも指定袋を買っていただく。先ほど〇〇委員に聞かれたのですけれども、白井市の場合は、指定袋を買っていると思うのですけれども、あれはあくまでも袋代だけなので、手数料を、今それを検討しているというところなのですけれども、有料化というわけではなくて、実際にその袋を買った分の収入が白井市に入ってくるわけではありませぬので。

○委員 じゃあ、ゼロということですね。わかりました。

○事務局 資料（家庭系ごみ有料化に係る支援体制の状況）をもとに支援体制の状況について説明。

○会長 今これ資料のコピーいただいたのですけれども、この中で何かご意見、何か皆さんありますか。あくまでも参考。

○事務局 これを踏まえて、こちらのほうも検討していくということになると思うのですけれども、一応状況について把握していただくということで、出させていただきます。

○委員 白井市も有料化になった場合は、子育て世帯なんかは。

○事務局 考えていく必要があるのかなと考えてはおります。また、この中でおいおい検討することにはなると思うのですけれども。

○会長 ごみの減量を図っていく中で、有料化も致し方のないものかなという部分もあるのかもしれませんが、ごみをごみでなくすることによって、逆に今度、市民に還元できるような形をとればとは思っているのですけれども。有価物も、燃えるごみとして今扱われているのが随分あるから、その辺をもう少し市民側も、有価物とそうじゃないものときちっと区別できるようにすれば、もっと自分たちにとってもプラスになるのだというのをわかるようにしてあげるといいのかなと思うのですけれども。

この資料について、何か、さっと見てごらんになったところで、何か気づいた

ところがあれば。

○委員 さっきの子育て世帯のほうじゃなくて、最初の野田市のごみ袋、一定量の量でというのをなかなか進まない印西市に提案して、先んじて、とりあえずこの方法でやってみてくださいみたいに提案すると、白井市のごみ有料化が早くできるような気がするのですが。

○会長 事務局も最初にありましたマイクロプラスチック。ここ最近だから、見えるようになってきたけれども、ずっと昔から飛んでいるのだよね。例えば今、洋服なんかもプラスチック関係でできているものがありますから、洗濯して物干しているだけで、それだけ飛んでしまうというのも今わかってきているというのがありますから。

だから、どちらにしても、ペットボトルなんかは、日本の扱っているペットボトルは回収しているじゃないですか。あれなんか、ほかの諸外国から比べれば、有価物としてはかなりいい値になっている。海外からも日本のペットボトルの製品化したやつを買いに来るぐらいなのですから。だからもったいないですよ。それをただ回収業者が集めていって、市としては手数料みたいなのを払っている。どこで売り買いするお金になって、そのお金がどうなっているのかというのを、例えば行政のほうで集められるようになれば、その辺も行政のほうで全部調整できるようになるのかななんて思ったりもしたのです。回収するのに、キロ20何円とか。売るのに40何円とかで売りたいという話もちょっと聞いたもので、もったいないなというところなのです。

○委員 1点だけ確認していいですか。この手数料などというのは、純粋な手数料ですね。

○事務局 純粋な手数料といたしますと。

○委員 要は、白井みたいに袋代で今買っていますよね。それにプラス、これ。

○事務局 ということです。そのとおりです。

○委員 ということは、実際はもっと高いわけですね。

○事務局 実際に買うときは、それプラス袋代。

○委員 例えば、千葉市で45リッターだと、36円プラス袋代。

- 事務局 そういうことになります。
- 委員 ということは、10枚入りだと500円ぐらいするわけ。ということですか。
- 委員 だから、値上がりしたときに、本当に使うのかということですよ。
- 委員 それで聞いているのです。一般家庭で、えらい高いイメージをされると。
- 委員 今まで定着していますから。逆に野田市は、120枚までは無料と。
- 委員 120枚ぐらいあれば、大体一般家庭だと間に合います。
- 委員 年間フルに使っても、1週に2回しかないのだから、年間96回ですよ。120枚だったら、袋は無料でもいいのじゃないですか。
- 委員 だから、たくさん出す人が負担するという考え。
- 事務局 それで減量化を図っていくという考え方だとは思いますが。
- 委員 数字としては取れますよね。ここで改めて幾らでなくちゃいかんとか決めると、またどうかというふうにもなるのじゃないですか。
- 委員 ただ、白井の場合、有料化すると、相当高いイメージがありますよね。
- 委員 そうですね。と思います。それがかえって、ごみを減らす方向へ行っちゃうのか、不法投棄になっちゃうのか。難しいですね。せっかくこういうルールができているのだから。
- 委員 印西は粗大ごみも無料だから、それを有料化にするというのはかなり抵抗あるのじゃないですか。
- 事務局 あくまでも個人的な意見ですけども、それは恐らくあるのかなと思います。白井が導入した、粗大ごみ導入したときも。
- 委員 粗大ごみ無料というのは珍しいですね。
- 事務局 先ほど申し上げましたけれども、全てのごみで無料なのは、成田市と印西市だけですので、県内ですと。

- 委員 空港か何かが絡むでしょう。
- 委員 税収がすごいから。
- 事務局 もありますけれども、ただ、やっぱり受益者負担の観点からということでは考えているというのはいいと思います。
- 会長 資料について、よろしいですか。
あと、事務局何かありますか、その他。
- 事務局 事務局のほうからは特に。その他として挙げているのですけれども、こちらに今現在、報告等はございません。
- 会長 委員の皆さんから、あとはデータが送られてきて、次回お話をいただければなと思います。
- 委員 済みません、そのときに、データ出していただくと同時に、先ほどおっしゃったように、ここ近年、市民向けの普及啓発にどんなところに力を入れて、その結果どのくらいごみが減ったかとか、どういう効果があったとか、その点。
それから、ここ一、二年で考えていることと、やはりそれは並行していくと思うのです、ごみ減量と。もしかしたら、そちらを徹底的にやれば減るかもしれないわけじゃないですか。やれていないところもあるかもしれない、その辺も出していただけたら、検討材料の一つになるのじゃないかと思います。
- 事務局 わかりました。
- 会長 事務局のほうも、いろいろあって大変かと思いますが、こちらのほうを優先していただければ、恐縮ですが、よろしく願いいたします。
では、そのほか特になければ、とりあえずは終了させていただく形でもよろしいでしょうか。
それでは、以上で本日予定させていただいた議事は終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。
この後は、事務局にまたお任せして、次回の開催日ですとか、その辺のところをわかればお知らせいただければと思います。よろしく願いします。
- 事務局 次回の審議会の日程なのですけれども、災害廃棄物の処理計画のご報告をしなくてはいけないところがございますので、1月に入ってからを予定したいと考え

ておりました、また日程が決まりましたら、こちらからまず電話連絡させていただいて、日程調整させていただきたいと思っておりますので、心づもりのほうよろしく願いいたします。

では、本日は、長時間にわたり、どうもありがとうございました。